

# 第 16 回日本在宅ケア学会学術集会

## 事業完了報告書

### 1. 開催年月日

平成 24 年 3 月 17 日（土）、18 日（日）

### 2. 大会テーマ

日本復興のための在宅医療・在宅ケア

### 3. 会場

ホテルグランドパレス（東京都千代田区）

### 4. 開催主体

主 催 日本在宅ケア学会  
共 催 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団  
大会長 原 礼子（慶應義塾大学看護医療学部教授）  
合同開催 第 14 回日本在宅医学会大会

### 5. 協賛団体（五十音順）

株式会社 医学書院	株式会社 南江堂
医歯薬出版株式会社	日本在宅ケア教育研究所
株式会社 近鉄スマイルサプライ	財団法人 日本訪問看護振興財団
グラクソ・スミスクライン株式会社	株式会社 ホスピタリティ・ワン
株式会社 コンダクト	ホスピタルパートナーズ株式会社
株式会社 サンフォーレ	持田ヘルスケア株式会社
助産院さくらバース	株式会社 ヤマト
東洋羽毛首都圏販売株式会社	株式会社 ワールドプランニング
徳洲会グループ	

(17 団体)

### 6. 参加者数

	参加者数
会 員	304 名
非会員	331 名
学 生	5 名
合計	640 名

## 7. プログラム

### 1) 講演

#### (1) 会長講演

日 時 3月17日(土) 12:50-13:20  
テーマ 在宅ケアのかたち  
座 長 中山 洋子(福島県立医科大学看護学部)  
会 長 原 礼子(慶應義塾大学看護医療学部)

#### (2) リレー講演

日 時 3月17日(土) 13:20-15:10  
テーマ 在宅ケアのかたち  
座 長 福島 道子(国際医療福祉大学保健医療学部)

##### 講演1

テーマ 震災を経験し、震災を考える  
演 者 齋藤 裕基(株式会社ウェルファー：岩手県)

##### 講演2

テーマ 悪夢の日・3月11日 ー支援者として感じる事ー  
演 者 佐竹 悦子(名取市震災復興部生活再建支援課：宮城県)

##### 講演3

テーマ 復興 ー福島からの発信ー  
演 者 三瓶 弘子(相双保健福祉事務所保健福祉課：福島県)

#### (3) 特別講演

日 時 3月17日(土) 15:10-16:00  
テーマ ケアの倫理 ー人格の前で・他者のためにー  
座 長 原 礼子(慶應義塾大学看護医療学部)  
講 師 田畑 邦治 (白百合女子大学)

#### (4) 教育講演

日 時 3月18日(日) 13:50-14:50  
テーマ 米国における在宅看護とホスピスの実際  
座 長 山本 則子(東京医科歯科大学大学院)  
講 師 ラプレツィオーサ 伸子  
(アービントン記念病院訪問看護及びホスピス看護師)

## 2) 公開講座・シンポジウム

### (1) 大会記念合同シンポジウム

日 時 3月17日(土) 16:10-17:50  
テーマ 在宅医療・ケアへのIT導入 ―現在そして未来―  
座 長 原 量宏(香川大学瀬戸内圏研究センター特任教授)  
野口 聡(経済産業省大臣官房参事官)

#### 講演1

テーマ 「かがわ遠隔医療ネットワーク」の在宅医療支援と個人認証  
演 者 原 量宏(香川大学瀬戸内圏研究センター特任教授)

#### 講演2

テーマ 地域医療におけるQOL向上を目指した実証実験 ―次世代パーソナルモビリティとIT利用―  
演 者 矢口 忠博  
(本田技術研究所未来交通システム研究室主任研究員)  
川島 英敏  
(日本赤十字社熊本健康管理センター企画広報課長)

#### 講演3

テーマ IT戦略における医療情報化の検討 ―在宅医療と介護で連携することが有効な情報について―  
演 者 有倉 陽司  
(内閣官房通信技術(IT)担当室内閣参事官)

#### 講演4

テーマ 震災から超高齢社会へ向けて地域包括医療・ケアを支えるプラットフォーム  
演 者 工藤 憲一  
(野村総合研究所 コンサルティング事業本部 ICT・メディア産業コンサルティング部)

### (2) 勇美記念財団助成シンポジウム(公開市民講座)

日 時 3月17日(土) 18:00-19:20  
共 催 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団  
テーマ 事象の真実を明らかとし、経験をいかに在宅医療・ケアに生かすか  
座 長 服部 信孝(順天堂大学医学部)  
原 礼子(慶應義塾大学看護医療学部)

#### 講演 1

テーマ 原発と真実 チェルノブイリからの経験から  
演者 菅谷 昭 (松本市長)

#### 講演 2

テーマ 震災の真実 応援医師の立場から  
演者 永井 康徳  
(「気仙沼在宅支援プロジェクト」 たんぽぽクリニック)

#### 講演 3

テーマ 震災の真実 ナースの立場から  
演者 佐藤 美穂子 (日本訪問看護振興財団常務理事)

### 3) 研究発表

#### (1) 示説発表

群	テーマ	演題数
PA 群	訪問看護 (1)	4 題
PB 群	認知症ケア	4 題
PC 群	介護保険・介護予防	4 題
PD 群	在宅サービス提供者	4 題
PE 群	家族支援 (1)	4 題
PF 群	家族支援 (2)	4 題
PG 群	終末期ケア (1)	4 題
PH 群	療養生活と支援	4 題
PI 群	小児に在宅・地域支援	5 題
PJ 群	在宅ケア支援：災害 (1)	5 題
PK 群	終末期ケア (2)	5 題
PL 群	訪問看護 (2)	5 題
PM 群	在宅ケア教育	5 題
PN 群	高齢者のケア (1)	5 題
PO 群	在宅ケア連携 (1)	5 題
PP 群	在宅ケア連携 (2)	5 題
PQ 群	地域の連携と支援 (1)	5 題
PR 群	高齢者のケア (2)	4 題
PS 群	訪問看護 (3)	5 題
計		86 題

## (2) 口演発表

	テーマ	演題数
0A 群	退院支援	5 題
0B 群	高齢者ケア (3)	5 題
0C 群	組織管理・運営	6 題
0D 群	終末期ケア (3)	6 題
0E 群	在宅ケア支援：災害 (2)	4 題
0F 群	利用者の思い・満足度	4 題
0G 群	家族支援 (3)	5 題
0H 群	訪問看護 (4)	6 題
0I 群	地域の連携と支援 (2)	6 題
計		47 題

## 4) 交流セッション

### (1) 交流セッション A

日 時 3 月 18 日 (日) 11:10-12:00  
テーマ 生活と医療とを統合する継続看護マネジメントモデル(仮)の検討  
プランナー 長江 弘子 (千葉大学大学院)

### (2) 交流セッション B

日 時 3 月 18 日 (日) 13:00-13:50  
テーマ 実践の場における訪問看護師学習支援プログラムの開発ー訪問看護師 OJT ガイドブック作成についてー  
プランナー 本田 彰子 (東京医科歯科大学大学院)  
上野 まり (日本訪問看護振興財団)

## 5) ランチョンセミナー

日 時 3 月 18 日 (日) 12:00-13:00  
テーマ 在宅生活者に対する痙縮治療と リハビリテーション  
座 長 川手 信行 (昭和大学医学部リハビリテーション医学教室)  
講 師 菊地 尚久 (横浜市立大学)  
共 催 グラクソ・スミスクライン株式会社

## 8. 日本在宅ケア学会本部行事

### (1) 日本在宅ケア学会学会活動推進委員会主催公開講座

日 時 3月17日(土) 9:15-10:45  
テーマ 2012年度に施行される法律改正を踏まえた今後の在宅ケアの展望  
座 長 黒田 研二 (関西大学)  
ご挨拶 川又 竹男 (厚生労働省老健局振興課長)

#### 講演 1

テーマ 介護保険法等の一部改正および診療報酬/介護報酬同時改定が在宅ケアに与える影響：看護職より  
演 者 内田 恵美子 (日本在宅ケア教育研究所代表取締役)

#### 講演 2

テーマ 介護保険法等の一部改正および診療報酬/介護報酬同時改定が在宅ケアに与える影響：介護職より  
演 者 井上 千津子 (京都女子大学教授)

### (2) 平成 23 年度総会

日 時 3月17日(土) 10:45-11:45

## 9. その他の開催事項

### 参加者の交流：懇親会

日 時 3月17日(土) 19:30-21:00

## 10. 学術集会を終えて

本学術集会は「日本復興のための在宅医療・在宅ケア」というテーマをかかげ、震災復興のなか、地域社会で在宅療養を続けられる方々に対して、在宅医療・在宅ケア従事者の役割、在宅療養者とその家族に対する心のケア、サービス提供者のメンタルケアの問題、長期展望をもった具体的な支援のあり方など、多岐にわたる発表や講演があり学際的な交流の場となった。

本学術集会の参加者は640名(2日間の述べ参加者数は約850名)と多く、昨年度までと比較しても飛躍的に増えた。学術会場が全国から参集しやすい東京であったことに加え、第14回在宅医学会大会との合同集会のため、インフォメーションが浸透したと思われる。

参加者は、看護，介護，社会福祉，保健，リハビリテーション，医療などの多職種のため、多面的な意見交換が行われた。また、実践・研究・教育といった活動領域の異なる参加者がいることで、一層活発な集会となったと思われる。特筆すべきは、以下の3点である。①在宅ケアの実践者であるサービス提供者の方々が多数の示説発表をしていた。②病院・病棟等で退院支援を行っている臨床の看護師が、一般参加者として学習している姿を目にした。③第14回在宅医学会大会のプログラムと相互参加ができたため、複数の会場で医師の発言があり、積極的な意見交換が行われていた。

第14回在宅医学会大会のプログラムが一部は同じ会場で開催された点も効果的であった。特に同時会場であった示説発表は熱気あふれるものとなったと感じる。勇美記念財団助成シンポジウムは市民公開講座であった。講座に参加した方（在宅医療や在宅ケア関係者以外の方）から、3名の講演から震災に向き合っている被災者や支援者の体験が伝わってきて感銘したとの感想を頂戴し、このシンポジウムの意義を再認識した。この場をおかりして、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の感謝を申し上げたい。